

平成 25 年 12 月度定例自然観察会 報告書

六甲山自然案内人の会 3 班

実施 : 平成 25 年 12 月 14 日(土) 9:30~15:00

天候 : 晴れ、寒風あり

テーマ : 藍那古道、義経伝説を辿る

山間の道、冬支度を終え、来る春に備えた樹々の姿、中でも冬に観られる実を観察

配布資料 : ルートマップ・植生リスト・藍那古道や六條八幡宮の歴史説明書きの A3 版を A6 にたたみ込んだ冊子を配布した。

果実(宝石箱に他で採取した実を十数種)を各班に準備して、説明の都度手元で見てもらった。

コース : 藍那小学校集合→藍那古道~丹生神社手前~六條八幡宮

参加人数 : ビジター 17 名 会員 31 名 合計 48 名 (当日は赤穂浪士討ち入りの日。1 名の助っ人あり)

案内人 : 1 班 岡 , 2 班 中島 , 3 班 佐藤 会員対応 松本 福本

概要

ビジターを 3 班に分け、会員班との 4 グループは水溜りに氷が張り、氷柱がぶらさがっている寒風の中、出発。アスファルト舗装の道に行く。(昼食のレンコン畑まで)

ツルウメモドキのはじけた実(黄色に熟し赤い仮種皮に包まれた種子)は、鳥が大好きだ。

アオツツラフジの実、つぶしてアンモナイトを見せた。テイカカズラの実がある、名前の由来を説明。

ヤブコウジの赤い実は正月用の寄せ植えによい、別名十両。

このあたり見えている断層は、神戸層群 3500 万年前の地層と説明。

ジャノヒゲの実が青紫色に輝いている。一皮むいて、はじき玉にして、道路で弾ませ遊んだ。

チャノキが白い花を咲かせている。

アオキが緑色から赤い色の実を付けている。

サネカズラ(ビナンカズラ)はキイチゴを大きくした様な赤い実、つるの粘液を整髪料にしていた。神戸特有のキベリハムシの食草である。

フユイチゴが群生、赤い実で食べごろに生っている

ウバユリ、さく果が裂開しており、指ではじくと翼付き種子が飛び散り風に舞ったので歓声が挙がった。

ケケンボナシ、木の下にたくさんの果実が落ちていた、果柄にむっちり肉を付け、しゃぶると甘かった。

故郷で子供の頃しゃぶったがこんなにたくさんあると喜ぶ人がいた。ケンボナシ茶が売られていると紹介。

スズメウリの白い実が鈴なりにぶら下がっていた。フユノハナワラビ(シダ)が咲いていた。

11:30 レンコン畑前の日の当たるコンクリート道端で昼食。

昼食後も藍那古道を進む。川底を思わせるレキ層・丸い石の転がる谷筋や寒風の当たる尾根道を進む。

ムラサキシキブの紫の実、やや大きい実のヤブムラサキはガクが付いている。(紫式部にはガクがない)

ソヨゴは赤い実をぶらさげていた。ヒサカキが黒い実を付けていた。

サルトリイバラは関西では柏餅を包む葉の代用に使っていた。別名サンキライ(山帰来)の語源の説明。

チラチラと道端に動くものが時々目に入る。クロスジフユエダシヤクは競争相手のなくなった寒林を思う存分舞飛ぶ蛾である。(先週は群れで舞っていた)

珍しいコショウノキ、オケラ(乾燥させた根を燃やしてをけら詣で使う)に出会う。

マユミの紅葉は鮮やか、タカノツメの黄葉は落ちて香っている。他にも遅れた紅葉・黄葉が観られる。

やがて農道へ出て、正面に丹生山系が姿を現わす。丹生神社の手前で県道を横断、農道を六條八幡宮へ向かう。

参道入り口の鳥居から神事「うまかけ」の馬場を通過して六條八幡宮に到着、ここで説明の後解散。

大勢は山田小学校前バス発 15:23 箕谷行のバスに乗車。この後反省会は箕谷のうどん屋で一杯？。

48 士の出陣、藍那古道と義経道の説明



フユイチゴの実「結構いけますネ、甘い！」



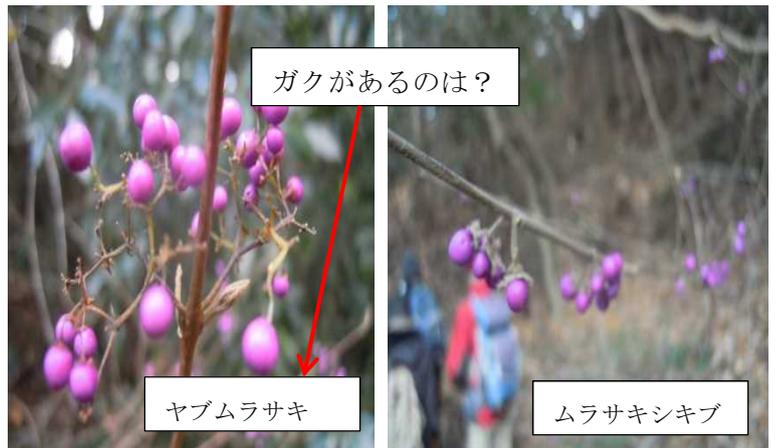
神戸層群の露頭



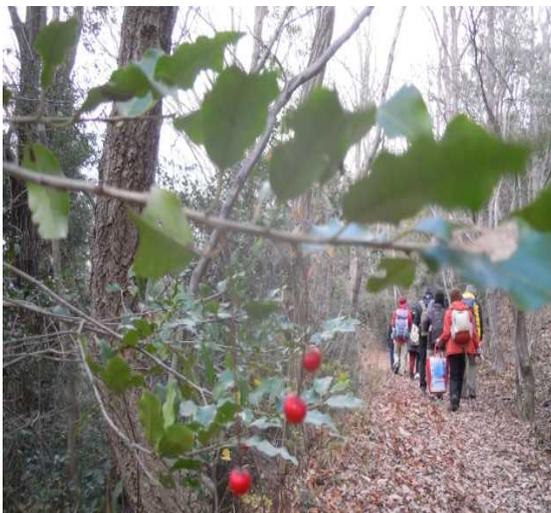
ヤブムラサキ



ムラサキシキブ



ガクがあるのは?



ソヨゴの赤い実はイヤリング? 落ち葉の径を見守る。

